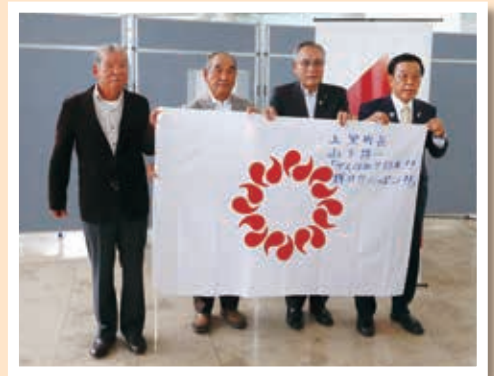


10/6

東京2020オリンピック聖火リレートーチの巡回展示開催

東京1964オリンピックの聖火リレーでは、10月6日に群馬県から上里村（現上里町）で聖火を引き継ぎ、埼玉県内のリレーがスタートしました。

これにちなんで、東京2020大会に向けた気運を醸成するため、埼玉県内で開催されている東京2020オリンピック聖火リレートーチの巡回展示が、10月6日(火)に上里町からスタートしました。当日はオリンピックトーチが上里町役場1階ロビーに展示され、一般観覧されたほか、町長や町議会議員に加え、東京1964オリンピック聖火リレーに参加された町内在住のオリンピック聖火ランナー3名による記念撮影会が実施されました。



◀当日は、東京1964オリンピック聖火リレーで県北地域を走ったオリンピック聖火ランナーたちで結成された「聖火よふたたび!」実行委員会のご協力により、当時使用された「オリンピックトーチ」や「写真」なども展示されました。

上里町（当時は上里村）では、群馬県の新町交番で聖火を引き継ぎ、中山道および旧中山道沿線を4区間でリレーし、本庄市に引き継ぎました。1区間は23人編成で、トーチを持つ正走者1人、副走者2人、伴走者20人が整列して走りました。

「東京1964オリンピック聖火リレー」の伴走者にインタビュー

東京1964オリンピック聖火リレーは、3人が高校1年生の時に実施されました。3人は中学校の同級生で、別々の高校に進学していましたが、全員が中学生の時に駅伝部に所属しており、中学校の推薦により伴走者に選出されました。



いの おか ひさし
猪岡 壽さん

展示されていた東京1964オリンピック聖火リレートーチを見て、伴走者の責務を務めながら、オリンピックへの期待に胸を躍らせた当時のことを思い出しました。

聖火リレー当日は、沿道に多くの方がいて、地域全体の声援を受けているようでした。



いわ た さく ずみ
岩田 作澄さん

自分に伴走者の声が掛かるとは思っていませんでした。

今考えると、中学生の時、駅伝の都市大会で優勝し、県大会に出場したことへのご褒美だったと思っています。

聖火リレー当日は、伴走者としてのプレッシャーは無く、高揚感が勝っていました。



くわ ばら あきら
栗原 章さん

当時は走ることに夢中で、自分がオリンピックに関わっている気持ちはありませんでした。テレビをとおしてオリンピックを見ることで、徐々に実感が湧いてきたことを覚えています。

一度の人生で2回も、日本で開催されるオリンピックに携われるとは思っていませんでした。



Kamamoto Public Information

かみさと

11月号(No.618)© 令和2年11月1日発行
発行・上里町 編集・上里町役場総務課庶務係
〒369-0392 埼玉県児玉郡上里町大字七本木5518番地
※記事の一部に読みやすい「ユニバーサルデザインフォント」を採用しています。



広報誌をダウンロード
するページです

◆上里町役場

電話・FAX番号 TEL.0495-35-1221(代) FAX.0495-33-2429

[上里町ホームページ] <http://www.town.kamisato.saitama.jp/>



この広報は環境に優しい
ベジタブルインキと
再生紙を使用しています。